

2023 年度 事業報告書

I. 放送関係の各種事業の企画と実施、学会・講座・コンクール等への協力

(1) 全国放送教育研究会連盟・NHK主催の第70回NHK杯全国高校放送コンテストの講師・審査員として協力、協会賞贈呈(理事長さらだたまこが出席)。

(2) 協会及び協会員主催による作家育成(放送作家・脚本家含む)を目的としたセミナーの実施

・セミナー「藤森いずみ土曜脚本塾」

講師:藤森いずみ

2023年5月13日より前期6回、2023年11月11日より後期6回にて実施。

・セミナー「ラジオドラマを書こう」

講師:葉月けめこ、滝本祥生、藤井香織(各2回ずつ担当)

2023年7月15日より6回

・セミナー「ラジオドラマの作法を学ぼう」

講師:葉月けめこ、滝本祥生、藤井香織(各1回ずつ担当)

2024年2月17日より3回

・「創作テレビドラマ大賞・創作ラジオドラマ大賞」公開講座

NHKの後援を得て実施。

【創作テレビドラマ大賞 公開講座】

日時:2023年5月28日(日)15:00~17:30

開催形式: ZOOM ウェビナー

タイトル:『今、現場が求めている脚本とは?』

出演:大森美香(脚本家)、小山正太(脚本家)、森野マッシュ(第47回創作テレビドラマ大賞受賞者)、松浦善之助(NHKメディア総局 第3制作センター[ドラマ]ディレクター)、橋本万葉(NHKメディア総局 第3制作センター[ドラマ]ディレクター)

進行:小林雄次(脚本家・日本放送作家協会常務理事)

総合司会:井出真理(公募プロジェクト担当)

チケット申し込み 283名

【創作ラジオドラマ大賞 公開講座】

日時:2023年11月23日(木・祝) 15:00~17:30

開催形式: ZOOM ウェビナー

タイトル:『“台詞と音で見せる”ラジオドラマの描きかた』

出演:藤井香織(脚本家)、井出真理(脚本家)、菊谷淳子(第51回大賞受賞者)、真銅健嗣(NHK オーディオドラマ制作者)、北阪昌人(脚本家)

総合司会:井出真理(公募プロジェクト担当)

チケット申し込み 201 名

テレビ・ラジオともオンラインで開催したことにより、リアル開催時の都内近郊からの参加の他、地方からの参加も多く、アンケート結果でも満足度が高かったことが伺えた。

II. 未来を担う若手脚本家の発掘と育成

例年通り日本放送作家協会とNHKの共催事業として、NHKエンタープライズおよび放送文化基金の後援を得て「創作テレビドラマ大賞」、放送文化基金の後援を得て「創作ラジオドラマ大賞」を実施。

(1) 第 48 回創作テレビドラマ大賞

応募総数 1123 篇から大賞 1 篇、佳作 2 篇を決定。

大賞 竹上雄介・作「明日、輝く」

佳作一席 伊藤彰汰・作「天使の自決」

佳作二席 三原貴志・作「タケシと宇宙人の夏物語」

(2) 第 52 回創作ラジオドラマ大賞

応募総数 331 篇から大賞 1 篇、佳作 1 篇、奨励賞 2 篇を決定。

大賞 門前日和・作『父さんが会いにきた』

(二次選考までは、作者名・坂本絵で発表)

佳作 三谷武史・作『サクラサクラ』

奨励賞 青山ユキ・作『優しい嘘』

奨励賞 岸 朋楽・作『彼女はきっとからりと笑う』

III. 協会の広報活動

(1) 協会及び協会員の活動を紹介するホームページの維持、管理、更新

(2) 協賛団体(株)EDIT運営のサイトMonjaにて会員リレーコラムを毎週日曜に掲載

(3) 「放送作家の番組証言アーカイブ」を協力団体としてサポート

・藤井青銅(聞き手:内村宏幸)

・李闘士男(聞き手:たむらようこ)

・関秀章(聞き手:たむらようこ)

・鈴木おさむ(聞き手:内村宏幸)

(4) 放送ライブラリー共催によるトークイベントの開催

「テレビとCMで見る1980年代！」関連イベントとして座談会「放送作家と振り返る1980年代！」を開催。

登壇：内村宏幸、藤井青銅、さらだたまこ

(5) 日本脚本アーカイブズとの連携により「未来のクリエイターたちへ」を実施。

○制作者インタビュー

・テリー 伊藤(聞き手:村上卓史)

・古舘伊知郎(聞き手:鮫肌文殊)

- ・吉田 正樹(聞き手:内村宏幸)
- 脚本家インタビュー
- ・古沢 良太(聞き手:中町綾子)
- ・池端 俊策(聞き手:井出真理)

IV. 放送文化の向上に寄与した団体および個人の表彰

[功労者顕彰]

海老原 靖芳、川崎 良、木下 眞邦、小菅 俊男、関根 俊夫、坂内 馨一
山口 克久、伊藤 正浩、上杉 一紀、吉本 椎葉、町田 孝三郎、永田 昭治
盛多 直隆

V. その他の活動

・第6回「西の正倉院みさと文学賞」への協力

第6回「西の正倉院みさと文学賞」(小説コンクール)への協力。主催の宮崎県美郷町「西の正倉院みさと文学賞実行委員会」から、さらだたまこ前理事長に依頼のあった事業。協会は運営(主に審査・広報)に協力。審査員長は小説家・中村航氏。応募作 43 作品から大賞1作、優秀賞2作、審査員特別賞1作、佳作5作を選出。2024年1月20日授賞式を実施。

授賞式には審査員として羽田野直子理事が出席。

・東京作家大学

日本放送作家協会関西支部が故・藤本義一支部長時代より約30年にわたり運営してきた「作家養成スクール 心齋橋大学」のメソッドを東京に導入した「市川森一・藤本義一記念 東京作家大学」の設立・運営に協力。運営は「心齋橋大学」同様、株式会社大阪教育研究所が行い、協会はカリキュラム作成と講師紹介等を担う(講師は大阪教育研究所と直接契約)。2023年度の大阪教育研究所からの賛助会費は150万円。

VI. 支部

1. 関西支部

1) 心齋橋大学 第37期生の開講と新しい講座を開講

関西支部の放送作家が中心となって講師を務める「心齋橋大学」放送作家コース37期生が無事、開講できた。

また、「落語作家養成講座」「怪談師養成講座」「酒場マイスター養成講座」という3つの講座を新たに立ち上げ、開講することができた。

2) YouTube 制作と公開収録イベントを開催

前年度に引き続き、脚本家連盟関西支部と協力し、関西で活動する放送作家、ディレクターなどの経歴や活動内容を紹介する動画「がらがらがっしょん」を制作。

心齋橋大学で公開収録も行い関西支部の認知度アップ、新たな会員の獲得を目指した。

3) 新たな会員を獲得

新たな会員にも仕事の情報を共有。地域の PR 動画、イベントなどを協力しながら制作し、交流を図ることができた。

(文責:支部長 谷口隆三)

2.中部支部

令和5年も30歳以下の若手制作者の作品を対象とした「中部テレビ大賞」を開催した。中部7県より10本の作品がエントリー。7月中旬に会員が全作品を視聴し、審査を行った。令和4年度の出品作品数18本に比べ数は減ったが、作品の内容密度は濃く、テレビ離れが叫ばれて久しいものの、作り手のパワーは決してダウンしていないことを感じた。9月の表彰式でも受賞の喜びにあふれた声と共に、彼らの上司にあたる役職クラスや取材対象者が出席し、優秀賞・大賞受賞作品を鑑賞するなど、これまで以上の盛り上がりを見せた。こうしたやる気に満ちた制作者の期待に応えるべく、改めてこのコンテストの重要性を実感し、次年度以降の開催を決意した。

(文責・支部長 柳瀬元志)

3.九州支部 支部長 盛多直隆 事務局長 皆田和行 監事 香月隆

- 1) 従来より開催している放送シナリオ講座の継続。講師陣は支部会員若干名。(日本放送作家協会九州支部&西日本新聞TNC文化サークル・アイ&カルチャ天神共催)
- 2) シナリオコンクール「南のシナリオ大賞」の運営、ならびに大賞入選作品のウェブ・ドラマ化およびインターネット配信(1年間公開)。第17回の応募総数は252編。
- 3) 支部会員が脚本を書いた舞台は、今回は公演出来ませんでした。
- 4) 支部のホームページは、常に更新しています。会員のイベント情報も掲載され活発に運営されています。
- 5) 「南のシナリオ大賞」の授賞式の前に支部会員のミーティングを実施。放送作家としての新しい取り組みを協議。
- 6) 支部活動の活性化を目指し、支部企画、製作の連続ドラマ「ナナナナナナ」をYouTubeにアップしました。

(文責・盛多直隆)

4.北海道支部

1)高校生の放送活動への支援と協力

- ①NHK杯全国高校放送コンテスト石狩大会の後援・審査員の紹介 (5月)
- ②NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会の後援・審査員の紹介 (6月)
- ③北海道高等学校文化連盟放送コンテスト石狩大会の後援・審査員の紹介 (10月)
- ④北海道高等学校文化連盟放送コンテスト全道大会の後援・審査員の紹介 (11月)

2)新人作家の養成・発掘のための支援と協力

①日本脚本家連盟北海道支部主催の「北のシナリオ大賞」に協力

3)北海道内放送関連の文化事業への協力と参加

4)北海道支部ホームページの充実

5)「北海道シナリオ撰集・2024」の刊行

(文責・伊藤正浩)

5.中国・四国支部

1) 新会員の加入

昨年度に続き四国在住の岩城一平氏を新会員として迎えることができました。

支部エリア内の放送実績のある作家、コンクール受賞歴のある作家等への声掛けを続けていきます。

2)「中国・四国支部」への名称変更

四国在住会員を迎え、名称を変更しました。まだ四国での認知度は低いのですが、支部ホームページの立上げにより活動エリアを拡げ、四国の放送局とも繋がりを持っていこうという思いです。

3) ホームページの立上げ

支部ホームページについては支部総会等で計画し、北村真弘さんを中心として制作しており、今年度前半には立ち上げることをしています。

4) 広島県主催文化事業への協力

加藤ひさつぐさんの発案と尽力により、広島県男女共同参画財団主催の「ジェンダー川柳コンテスト」の審査員として山田幸さんが参加。創作ジャンルは違いますが、支部のPRに貢献してもらいました。今後も同様の企画を模索します。

(文責・野津聖治)

VII. 運営

1、理事会の現役員は次の通り(2024年4月30日現在)

理事長 内村宏幸

副理事長 村上卓史

常務理事(3名) 石橋里恵(石橋映里)、井出真理、小林雄次

理事(10名) 荒井修子、伊藤佳子(いとう菜のは)、井上英樹(鮫肌文殊)

香取俊一(香取俊介)、東海林 桂、高橋聡子(入山さと子)

仲 陽子(たむらようこ)、富永樹里(武田樹里)、中村直子(羽田野直子)、久松真一

監 事(2名) 上滝徹也(外部:日本大学名誉教授)

股野尚子(さらだたまこ(協会員))

2. 収支決算は提出別掲(決算報告書)の通り
3. 事務局職員 阿部佳奈子が協会事務を担当。
4. 事務局業務 常務理事が規約の日当支払に準じて分担して業務を担当。

以上、当協会2023年度 事業報告書であります

2024年 4月 30日

一般社団法人 日本放送作家協会

理事長 内村 宏幸